

ビタミンB12欠乏症

どんなことでも、患者さんの訴えに真摯しんしに耳を傾ける。大した症状ではないと、簡単に決めつけてはいけない。言うは、た易い。

72歳のA子さん。受診する度に多彩な自覚症状を訴える。つい、「今日は何?」「と身構える。で、「センス。両方の手足がしびれる。脳梗塞じゃない?」「と、深刻そうなのだ。

手足がしびれるというのが、部位はあやふやだ。いきなりしびれて、それが続いていくわけでもない。なら、脳梗塞ではなからう。自覚的なしびれ以外に、ふらつきもある。これは大分前からだ。閉眼して立つと、少しふらつく。片足で立てない。足腰の筋力が落ちているようだ。

が、念のため、頸椎けいついのMRI（磁気共鳴画像）検査をした。異常はなかった。実は、Aさんは、お嫁さんとごっせいってない。ストレスがたまると、不定愁訴ふじゆうしゆが噴き出すようだ。今回もそれか?と抗不安薬を処方した。

おっと、両方の手足のしびれやふらつきとくれば、ビタミンB12欠乏症による進行性の「亜急性性連合性脊髓変性症あきせうせうごうせうじ」という、やたら長たらしい名前の病気も考えておかなければならない。1万人に1人はいるというから、稀まれな病気ではない。

ビタミンB12欠乏症は、胃切除後や摂食障害の患者さんに起きやすい。だが、胸やけの薬を長くのんでいるひとや高齢者では、潜在的な欠乏症が少なくない。Aさんには、欠乏症によくみられる貧血はないし、MRIでも異常はなかった。でも、そういう変形症も少なからずあるという。

で、翌日には検査結果が分かるAさんのビタミンB12濃度が、やたら気にならだした。抗不安薬を出したのはまずかったか?などと、あれこれ、どうにもならないことを考えて眠れないワッシー先生。あげく、「医者には長生きできぬ」といぼす。充分に長生きをさせてもらっているというのに。

（石黒修三 さいしへんクリニック・脳神

経外科専門医…6/7北國新聞掲載）